

処理できない「核のゴミ」

「安全な原発」なんかない

大飯原発の再稼働なしでも猛暑の電力不足は起きなかった、との世論が高まる中、去る9月21日(金)毎金曜日に行われている首相官邸前行動に連帯して「脱原発ウォークひこね」が市民団体などから、ネットなどで急ぎよ呼びかけられ約40人が参加。甲良町からも4人がかけつけました。

日本共産党は25日、『即時原発ゼロ』の実現を日本共産党の提言を発表。志位委員長が政府に申し入れました。

「ウォーク」を呼びかけたのは、放射能から子どもを守ろうと活動している「ひこね子どもと明日を守る会」と湖北原発ゼロの会会員の岡田涼子さんです(別掲呼びかけ文参照)

彦根市律図書館前で集会を開き、志賀原発運転差し止め判決を下した元金沢地裁裁判長で、現在、ふくしま子ども集団疎開裁判などを担当される彦根

在住の弁護士、井戸謙一氏のお話の後、関電彦根営業所前から彦根駅まで「原発いらぬ・再稼働反対・東電と政府は責任果たせ」などコールしながら行進。通行人から温かい激励を受けました。

岡田さんらは、「福島を忘れない」として毎月11日のメモリアルデーに取り組む、とのこと。



井戸弁護士の話を聞く参加者
関電彦根営業所前でアピール



日本共産党の提言骨子

1、すべての原発からただちに撤退する政治決断を行う
「即時原発ゼロ」を実現する

事故の被害は拡大し続けている 二度と原発事故を起こしてはならない。稼働を続ける限り、処理する方法のない「核のゴミ」が増え続ける。再稼働が国政上の大問題になったが、その条件も必要性も存在しない。国民世論が大きく変化し、「原発ゼロ」をめざす声は、国民多数となっている。

2、原発再稼働の条件は存在しない 再稼働方針の撤回を求める

「原発なし」でも“猛暑の夏”を乗り切れた

3、「即時原発ゼロ」は可能 エネルギーと日本経済の未来をこう考える

(細目を省略)

4、福島の被災者支援と復興に総力をあげて取り組む

(細目を省略)

5、原発立地自治体への支援 雇用と仕事、地域経済の活性化支援は国の責任で

(細目を省略)

「即時原発ゼロ」の実現を

脱原発ウォークひこね 呼びかけ文

私たちの滋賀県のすぐ隣の福井県には、『高速増殖炉もんじゅ』他13の原子力発電所があります。もし福島原発のような事故になれば、私たちの町も、琵琶湖も、放射能に汚染されます。

子どもと明日を守るために、福島を忘れずに、原発に依存しない社会をつくるため、みんなで声を上げながら歩きませんか。

「原発いらぬ」「再稼働反対」「子どもを守ろう」琵琶湖を守ろう

<呼びかけ人> 岡田涼子、ひこね子どもと明日を守る会

甲良民報

2012年9月30日 529号
発行責任: 日本共産党甲良町支部
連絡: 甲良町在土463(西澤)
Tel.Fax38-4949

みなさんのお声・願いをお待ちしています くらし・医療・税金・教育などの相談は 西澤伸明 38-4949 丸山光雄 38-3123
日本共産党の見解を紹介します。メール siga-koura463@jcp-nobuaki.com ホームページもごらんください(「西澤伸明」で検索)